

相手を意識した表現活動 ～プレゼンテーション活動における「やりくり」～

林 真希

鳥取大学附属中学校 英語科
E-mail: hayashi-m@tottori-u.ac.jp

HAYASHI Maki(Tottori University Junior High School): **Expressive activities with the other person in mind— Management in Presentation Activities**

要旨 - 「相手を意識した表現活動」として、今回は班のメンバーでツアーコンダクターになり、「鳥取に来た観光客にどんな旅行で楽しんでもらうか」という自分たちのお薦めプランを考えてプレゼンテーションを行った。教師が提示した条件をもとに、生徒自身が伝える相手をイメージしながら、自分の知識や経験と結び付けて「思考」し、相手が求めているものを「判断」し、適切に「表現」したやりくり授業の実践を報告する。

キーワード 相手意識, プレゼンテーション, やりくり

Abstract — As an "expressive activity with others in mind," the students acted as tour conductors in groups, and gave presentations on their own recommended plans, such as "What kind of trip should tourists who came to Tottori enjoy?" Based on the conditions presented by the teacher, the students will "think" in connection with their own knowledge and experience while imagining who they will convey to, "judge" what the other person wants, and "express" appropriately. I will report on the practice of management classes.

Key words — Considering the others, presentation, management

1. はじめに

1.1. 英語科の取りくみ

本校英語科では、これまで、主にアウトプット活動場面の「書くこと」に焦点をあて、藤村など(2018)の協同的探究学習のプロセスを用いて授業実践に取り組んできた。表現活動の中で生徒自身の既存の知識を土台として、非定型な課題を個別探究と協同探究の工程を経て解決していきながら、主体的・対話的な学びを深めていく「やりくり授業」を展開してきた(石田・竹森・金森,2021)。

本年度も、生徒たちが、多様な答えや表現を考えることができる課題を、各単元に設定し、個別探究や協同探究を取り入れながら、生徒が「主体的に」「対話的に」そして「深く」考えることのできる「やりくり授業」に取り組んだ。

また、学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったり

することができる力を養う」ということが目標として挙げられている。今後ますます、自分の既習の知識や経験などを生かしながら、目的や場面、状況に応じて自分の考えを表現し伝えることが必要になるだろう。高島(2020)は、「課題達成のために伝えたい内容をどのような表現で実現すればよいのかを『考える』過程は、言語を習得する上で必要不可欠なステップである」と述べている。

このような背景を踏まえ、本年度は、「話すこと」「書くこと」のアウトプット活動の中で、目的、状況、相手に合わせて自分の意見をどう伝えたらいいかを判断しながら伝えて行くという「相手を意識した表現活動」に取り組むことにした。

1.2. 生徒の実態

本校 2 学年の生徒は昨年度からの持ち上がりで担当している。生徒たちは、1 年次には、鳥取県の紹介プロジェクトとして、鳥取県の場所や名産物などをタブレットの google のスライド機能を使い紹介する”What’s this?クイズ“を行っている。自

分の身近な物事から題材を見つけ、相手に伝えるというこの活動は、生徒自身が中心となり、お互いに教え合いながら取り組むという有意義な活動になった。しかし、昨年度は自分の考えを相手に伝えるという活動に留まってしまった。コミュニケーションをする上で、相手の意図を汲み取り会話をつなげていくことは大切なことである。そこで、2年次となる今年度は、鳥取県の紹介プロジェクト第2弾として、相手の状況に合わせながら「自分の町を紹介する」という単元活動に取り組んだ。

2. 授業実践

2.1. 単元の概要

検定教科書 NEW CROWN English Series2 の Lesson3 の中で、既習文法を使いながら、「自分の住んでいる町を紹介しよう」という活動に取り組んだ。紹介する対象者や場面、相手が求めている条件を教師が設定することで、生徒が自ら考え、判断し、場に応じた表現ができるようになることを目的とするともに、生徒の「思考力・判断力・表現力」を大切にしながら、班のメンバーでツアーコンダクターになり、「鳥取に来た観光客にどんな旅行で楽しんでもらうか」という自分たちのお薦めプランを考えて google スライド機能を使用して発表することにした。

各班に、それぞれ異なる対象者、場面、相手が求めている条件を記入した Mission Card を配布し、生徒たちはカードにある条件に沿うように、自分たちで旅行プランを考え、そのプランを魅力的に伝えるためにどのように表現すれば相手に伝わるかを考えながらプレゼンの準備を行った。単元計画を表1に示す。

表1 単元計画(全10時間)

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 第1次 (6時間) | 新出文法の確認 教科書の内容理解 |
| 第2次 (4時間) | 鳥取紹介プロジェクトの準備と発表 振り返りをもとに、自分の原稿の修正 |

2.2. 授業の様子

2.2.1 授業における協同的探究学習

第2次では、藤村ほか(2018)の協同的探究学習プロセス(図1)に沿ってプレゼンの準備を行っ

た。

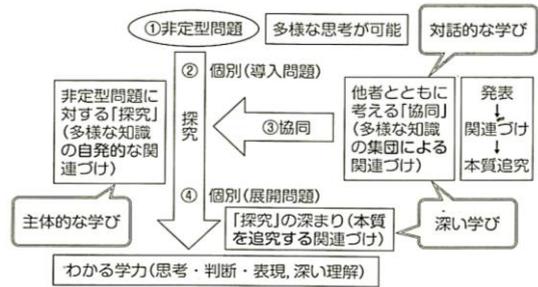


図1 協同的探究学習(藤村ほか 2018 より)

活動の流れを表2に示す。

表2 活動の流れ(個別探究と協同探究)

| | | |
|-----|--|----------|
| 第2次 | ①教師によるデモンストレーション | |
| | ②ワークシートにそって、班で行き先、昼食、お土産を決め、それぞれの担当を決める。 | 協同 |
| | ③発表原稿、Google スライドの作成 | 個別 |
| | ④班で原稿を確認し合い、原稿を修正 発表練習 | 協同 個別 |
| | ⑤プレゼン発表 | 協同 |
| | ⑥全体の発表を聞き、良かった表現を全体で共有し、自分の原稿を再度修正する。 | 個別 |

生徒たちは発表に向けて、ワークシートにそって、班の仲間と話し合いをしながら、対象者にとってわかりやすい表現、魅力的なスライドを1人1枚ずつ作成していた。(図2)



図2 話し合いの様子

図4と図5はMission Card(図3)をもとに考えた、生徒たちの作品の一例である。

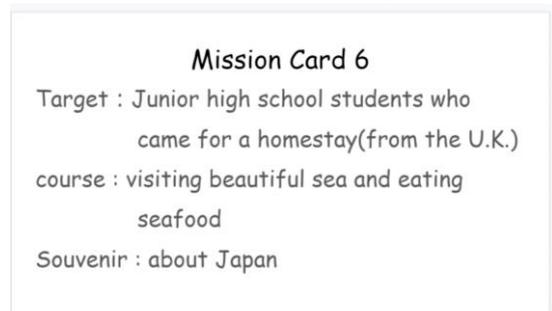


図3 Mission Card の例



図4 生徒 A の作品

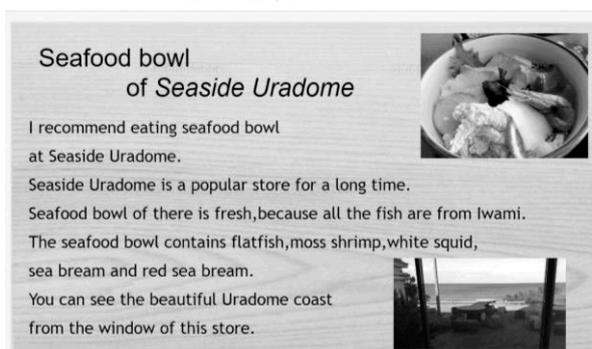


図5 生徒 B の作品

ここでは、イギリスの姉妹校から来た中学生たち向けに、美しい海を観光したり、海鮮系の食事をするプランを考えている。観光パンフレットや観光サイトを調べながら、自分たちの体験もふまえてスライドを完成させた。

また、自分たちと同世代や世代が異なる対象者を設定することで、その場の状況を判断しながら試行錯誤を繰り返していた。例えば、対象者が小学生の場合、「難しい表現では彼らに伝わらない」と班の中で相談しながら、彼らに伝わる表現はどんなものだろうか考える場面が見られた。

2.2.2 プレゼン発表時の様子



図6 プレゼンの様子

プレゼン発表本番では、自分たちのまとめた内容を伝えるために、写真を効果的に示しながら、発音やイントネーション等を工夫して発表することができた。聞き手を意識しながら、言う速さ、表現

の工夫、ジェスチャーを取り入れながら伝えていた(図6)。そしてプレゼンの最後には、自分たちの考えた旅行プランのポイントを発表した。

また、聞き手として他の班の発表を聞く際には、その班で出てきた Good Expression を見つけるようにした(図7)。

- Let's ~. / Why don't you ~? 「~してみては?」と呼びかけが出来ていいと思った。行ってみようという気になるから。
- How about ~? 勧めたい気持ちが伝わってきた。相手に呼びかけているから。誘われた感じがする。
- If you ~, ~ならとお勧めしてくれている。
- It looks ~. その状況がよく伝わってくる。
- Have a good time. いい時間を過ごしてほしい思いが伝わってくる。

図7 Good Expression の例

2.2.3 振り返りを通しての生徒の英文の変化

第2次の最後に、発表時の Good Expression をクラス全体で共有した。その際、なぜその表現が良かったのかの理由も確認しながら行った。理由を確認することで、生徒たちは具体的な場面を思い出しながら振り返ることができた。

その後、自分の原稿を見直し、相手にもっと魅力的に伝えるためにどうすればいいかを考え、原稿を修正した。ここでは、修正箇所がわかりやすいように、生徒のスライドを教師が印刷して配布し、手書きで色ペンで書きこむようにした。

2.2.1 で提示した生徒 A と生徒 B の修正後を以下に示す。

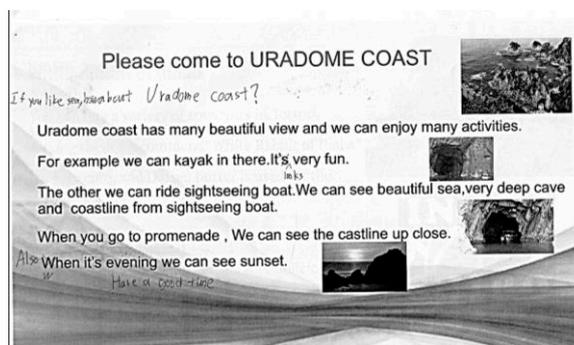


図8 生徒 A の修正後(修正箇所は手書き)

図8の生徒Aは、書き始めを工夫し、相手の立場に立って、"If you like sea, how about ...?"と相手を誘う表現を付け加えた。そして、最後に、"Have a good time."と相手を気遣う文も付け加えた。

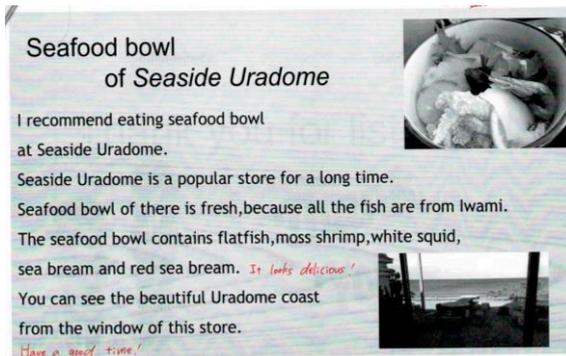


図 9 生徒 B の修正後(修正箇所は手書き)

また、図 9 の生徒 B は、海鮮丼を勧めているが、海鮮丼の説明文の後に、”It looks delicious!”と感想を付け加えた。さらに、最後の文の後に、相手を思いやる”Have a good time!”という一言を付け加えた。

このように、生徒たちは全体で共有した Good Expression をもとに、自分では気付かなかった新たな表現、対象者に合った表現、相手にお薦めするときの表現等に気付くことができ、個人の思考を深めていくことができた。

3. 実践の成果と課題

3.1. 生徒の振り返りから見える成果

全体の発表を聞き終えた後の生徒の感想を表 3 に示す。

表 3 生徒の感想(抜粋)

- ・それぞれの班が、ターゲットに合わせて場所を選んでいて工夫が見られていておもしろかったです。
- ・それぞれのターゲットや条件を考えながら鳥取の魅力が伝えられていた。
- ・県全体で考えるのではなく、中部・西部でまとめていたり、東部の中で周れるプランを考えていたり知らなかった場所を知る機会となった。
- ・対象となる人に合わせてプランが考えられていてとてもよかった。
- ・どの班も、最後に誘うような表現を使い、行ってみたいと思わせていた。
- ・それぞれの班の対象者が楽しめる場所を選んだり、今までに習った文法を使っていてわかりやすかった。
- ・各班で対象者に合わせて絵や言葉を選んでいてわかりやすかった。
- ・どの班も編集が上手で聞き手の興味を引き付ける発表をしていた。

対象が変われば、自分の考えや思いを伝える仕方は必然的に変わってくる。相手が求めているものは何かをきちんと理解し、聞き手を意識して原稿を考え発表することは、これからの社会の一

員として生きていく生徒たちにとって大切なものになるだろう。この活動を通して、目的・場面・状況に応じて、自分の伝えたいことを簡潔にまとめ、聞き手に伝わりやすいように話を展開していくというプレゼンテーションの仕方を考えることができたのではないだろうか。そして、他のグループの発表を参考にすることで、改めて自身の原稿内容を考察し、よりよいものにしようとする姿勢が感じられた。また、教師が条件を提示することで、単に自分の推奨する場所を伝えるのではなく、相手が求めているものをくみ取り、相手の要望をかなえられるような紹介が必要になる。今回の実践を通して、生徒自身が伝える相手をイメージして、自分の知識や経験と結び付けて「思考」し、相手が求めているものを「判断」し、適切に「表現」するやりくり授業を実践できたように思う。

3.2. 今後の課題

今回は、教師が課題に対する条件を出し、その課題を解決するために、生徒自身が考え、状況を判断しながら原稿内容を考える表現活動であった。アウトプット活動において、「書く」活動や発表などの「話す」活動では、自分の思考を整理しながら内容を構成していくことができる。一方で、相手とやり取りをしながらの「話す」活動になると、相手の意図を即座に判断し、会話を続けていくという「即興性」が必要となってくる。今後は、「話す」活動のやりとり場面にも重点をあてて、相手を意識した表現活動に取り組んでいきたい。

4. 参考文献

- 石田順・竹川由紀子・金森玲子(2021).「効果的なアウトプット活動のやりくり~Large Grammarの応用と場の工夫~」『鳥取大学附属中学校研究紀要』No.52,79~100
- 高島英幸(編著)(2020). タスクプロジェクト型の英語授業. 大修館書店, 2pp.-40pp.
- 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語編
- 藤村宣之ほか.(2018). 協同的探求学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—.ミネルヴァ書房, 38pp-45pp